

岩手県教育記者クラブ 各位

本資料は、岩手医科大学のプレスリリースです。

お問い合わせは、下記担当宛てにご連絡ください。



岩手医科大学

プレスリリース

平成 26 年 1 月 1 4 日

がん薬物治療の向上につながる新たな研究成果について

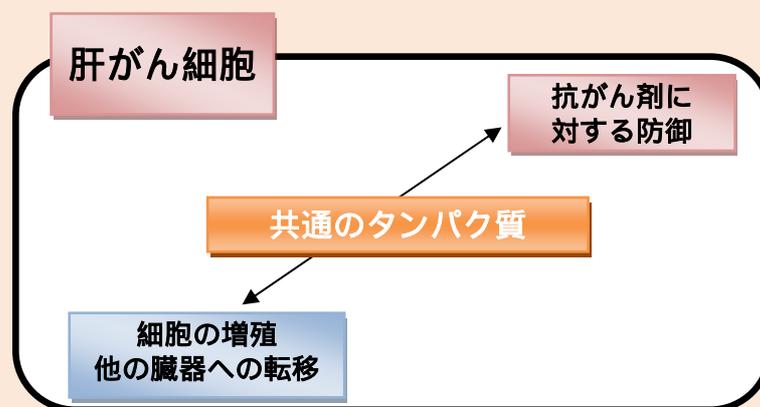
岩手医科大学薬学部薬物代謝動態学講座と附属病院薬剤部の研究チームは、がん薬物治療分野における新たな研究成果をイギリスの科学誌 BMC Molecular Biology に発表しました。本研究成果は、今後の更なる研究展開により、将来の有効ながんの治療方法に結びつくものとして期待されています。研究概要等は、以下のとおりです。

< がん細胞の働きと岩手医科大学研究チームによる研究成果 >

がん細胞は人体を栄養源にして、ついには人間を死に至らしめます。人間は、栄養や酸素を行きわたらせるために体の隅々まで血管を持っていますが、がん細胞は人体から栄養を奪い取るために、血管を自分の近くまで引き込みます。このがん細胞に対抗するために、人間はがんの治療薬を開発し、現在多くの治療薬が使われています。しかし、がん細胞は薬を無効な形に変えてしまう仕組みを持っており、抗がん剤が期待どおりの治療効果を示さない場合が多いのが現実です。これらがん細胞が持つ「自分が生き残るための戦略」は、常ながん治療の前に壁となって立ちはだかり、がんという疾病がなかなか制圧できない大きな理由となっています。

岩手医科大学の研究チームは、がん細胞が自らの生存を有利にするために、栄養の通路である血管を引き込む仕組みと、がん細胞ががんの治療薬を効かない形にする仕組みの共通ネットワークを明らかにしました（下図参照）。

今後、がん細胞が生き残るためのネットワークを働かなくさせる方策を考察することにより、将来の有効ながんの治療方法に結びつくものとして期待されています。



< 取材のお問い合わせ先 >

岩手医科大学薬学部 薬物代謝動態学講座 助教 寺島 潤

電話：019-651-5111（代）、内線 5243

E-mail: jterashi@iwate-med.ac.jp